資料提供

令和６年11月15日（金）
照会先：保健医療部疾病対策課感染症対策室疫学Ｇ
担当者：室長補佐　大芦
連絡先：029-301-3233（内線：3280）

レプトスピラ症患者の発生について

11 月 13 日、海外渡航歴のある県内居住者について、レプトスピラ症の発生届がありました。県内医療機関からのレプトスピラ症の発生届は 2019 年以来５年ぶりです。患者の症状は、既に軽快しています。

レプトスピラ症は、病原体を保菌しているネズミなどの動物の尿や、その尿に汚染された水や土壌などから感染します。河川でのレジャーや労働、台風や大雨による水害、保菌しているネズミ等の野生動物との接触が感染の機会として挙げられます。

なお、これまで本県で報告されたレプトスピラ症については、県内が推定感染地域とされる事例はありませんが、レプトスピラ症の報告が多い熱帯、亜熱帯の国々や九州・沖縄地方での水辺のレジャーを行うときや野生動物と接触する場合には、特に注意が必要です。

１　患者の概要：20 歳代、男性
２　推定感染地域：タイ王国
３　症　　状：発熱、頭痛、嘔気、筋肉痛、関節痛、血尿、蛋白尿、腎不全
４　経　過　等：

９月下旬	タイ王国から帰国
10 月 11 日	発症（発熱、頭痛、嘔気）
10 月 15 日	医療機関を受診。急性腎障害、血尿、蛋白尿を確認
10 月 16 日	別の医療機関を紹介され受診。同日、入院・治療の開始
10 月 21 日	症状軽快し、退院
11 月 13 日	国立感染症研究所による検査結果を基に、医療機関から保健所に発生届

プライバシー保護の観点から、患者及び患者家族等が特定されることのないよう、格段の御配意をお願いいたします。

○　レプトスピラ症とは
原　　因：レプトスピラ（スピロヘータと呼ばれる細菌の一種）
潜伏期間：５～14 日間
症　　状：発熱、悪寒、頭痛などの感冒（風邪）様症状のみで軽快する軽症型から、黄疸、出血、腎障害を伴う重症型まで多様な症状を示す。
治　　療：ドキシサイクリンやペニシリンなどの抗菌剤投与
感染経路：保菌動物の尿や汚染された水による経皮的感染、汚染された水や食品の経口感染
ヒトからヒトへの感染は稀である。
感染対策：擦り傷やきり傷がある場合は、水辺でのレジャーを控えると共に、レジャーの際には体に傷を付けないように注意する。川の水は、そのまま飲まない。
感染症法：四類感染症、全数把握疾患（診断を行った医師は保健所に届け出が必要）

【参考】

レプトスピラ症患者発生状況（全国値：2024.11.3 現在（44 週））　（単位：人）

年　次	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
全　国	32	17	34	38	49	44
茨城県	1	0	0	0	0	(※)1

※今回の事例を含む。